

鹿児島市内圃場【かぼちゃ】編

■試験の目的

本試験は、下水汚泥由来肥料の窒素肥効率やカリウム成分の補給効果を評価し、環境負荷の低減と持続可能な農業の実現を目指すものです。

■試験方法

鹿児島市内の圃場では、以下の2区画に分けて施肥試験を行っています。

区分	肥料構成	特徴
区分 1	化学肥料	従来の施肥方法による 比較対象区
区分 2	下水汚泥肥料+化学肥料	基肥は下水汚泥肥料のみ 不足するカリウム分を化学肥料で補給 穂肥は従来の施肥方法

■施肥設計

かぼちゃ		基肥現物量	追肥現物量	基肥肥 (kg/10a)					追肥肥 (kg/10a)					投入成分量 (kg/10a)				
区分	肥料	(kg/10a)	(kg/10a)	N	P	K	CaO	MgO	N	P	K	CaO	MgO	N	P	K	CaO	MgO
堆肥	農協堆肥	2,000																
化学肥料	苦土石灰	100					32	15						15	16	15	45	16
	苦土重焼燐	20			7		4	1										
	かぼちゃ配合	60		9	9	9	9											
	BRNK44		40						6		6							
化学肥料+ マグマソイル	苦土石灰	60					19	9						15	17	15	39	12
	苦土重焼燐	0																
	かぼちゃ配合	40		6	6	6												
	マグマソイル	300		3	11	1	20	3										
	硫酸加里	6				3												
	BRNK44		40						6		6							
※ 全窒素のうち、アンモニア態窒素1%のみを有効とし、窒素施肥量とする。																		
※ 鹿児島県の下水汚泥肥料施用ガイドライン（10aあたり500kg）																		

■試験期間

令和7年8月～令和7年12月（秋作）

【鹿児島市内の圃場での取り組み】

鹿児島市内の圃場では、農業生産者の協力のもと、10aの圃場にてかぼちゃを対象に施肥試験を実施。下水汚泥肥料は鹿児島県の下水汚泥肥料施用ガイドライン（10aあたり500kg）を遵守し、安全性と肥効の両面から評価を行っています。今後は、かぼちゃの収穫後に品質や生育状況を分析し、地域農業への応用可能を検討していきます。